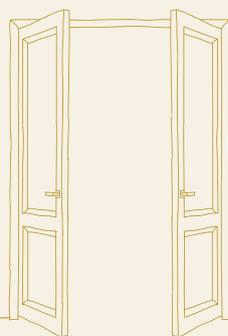


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.47



「定年退職後も世のため、 人のためになることをしたい」 でITボランティア活動を約20年



元会社員

野村 喜章さん (82歳) 2003年定年退職

【のむら・よしあき】1940年名古屋市出身。1962年大学卒業後、東京電力株式会社に入社、電気エンジニアとして50万ボルト電力系統の計画業務に携わる。1995年子会社に向出し、海外の電力プロジェクトのコンサルタント業務に従事。定年退職後、「練馬177地域ITリーダーの会」に入会し、初心者にはパソコンの操作を指導するボランティア活動を始める。

—野村さんは東京電力を定年退職後、パソコン操作を教えるボランティア活動を始めたそうですが、定年後のライフプランについては、いつ頃から描かれていたのですか。

定年退職する2年くらい前から、ただ自分の趣味だけで余生を送るのではなく、何か世のため、人のためになることをしながら、残りの人生を過ごしていきたいと思っていました。

定年退職した2003年、私は当時63歳でしたが、政府がIT社会の実現を目指すための「e-Japan戦略」と称する政策を打ち出し、各自治体も住民のIT利用促進に向け、地域における指導者養成に力を入れ始めました。私が住んでいた練馬区でも「ITリーダー養成講座」を主催し、指導者養成に取り組んでいました。

私自身について言えば、会社勤め晩年、1990年代からパソコンの普及が始まり、技術系職場にいた私はパソコン技術を習得する機会に恵まれました。定年退職後はこの技能を活用しようと思い、「ITリーダー養成講座」に参加しました。

—どのような講座だったのですか。

練馬区では2001年に住民のIT利用促進を図るため、数回のIT講習会を実施しましたが、非常に好評でした。そこで区は区内在住の人の中から一定のIT技術をもつ人を対象に、インストラクターを育成する目的で、「練馬地域ITリーダー育成

講座」を開催し、講座修了者を核として、より多くの人たちを指導していく制度を考えました。

講座の内容は、インターネット、メール、ワード、エクセルなどの基礎知識に加え、ホームページ作成など幅広い分野にわたりました。参加人数は30人くらいで、参加者は定年退職者、家庭の主婦が主であったと記憶しています。

練馬区では、その講座を受講して教育委員会が認定した修了者を、郵便番号別(地域ごと)に分け、4つのITリーダーの会を発足させました。この内の一つが「練馬177地域ITリーダーの会」で、私もそのメンバーとなりました。

—「練馬177地域ITリーダーの会」では、どのような活動をされているのですか。

地区区民館や庁舎、老人センターなど区内5カ所で、月1回2時間の「パソコン・スマホ相談会」を開催しています。相談会ではパソコン、タブレット、スマホに関する相談事、すなわち操作方法やトラブルへの対応方法、購買機種の選定などについて、指導・アドバイスをを行っています。相談に来る参加者は60代〜80代の高齢者がほとんどです。一般のパソコンスクールとは違い、相談者の知りたいことだけをマンツーマンで、きめ細かく、親切に教えています。

—野村さんご自身のIT知識や最新情報の習得は、どのようにされているのですか。



「パソコン・スマホ相談会」ではマンツーマンで、相談者の知りたいことを教えていく



「練馬177地域ITリーダーの会」の「パソコン・スマホ相談会」で挨拶をする野村さん

日進月歩で進化するパソコン・スマホ関連の情報や知識のアップデートは、必要不可欠です。私は毎日パソコンメーカーや日本経済新聞社などのメールマガジンを読んだり、図書館でIT関係の月刊誌を読んだり、ITリーダーの会の相談会報告書や勉強会などを通して、技能の向上を図り、最新情報の習得に努めています。

——**「昨今、シニアのデジタル・ディバイド（情報格差）が課題となっておりますが、これについて野村さんはどのようにお考えですか。」**

世の中は今後ますますデジタル化が進むと思います。政府がデジタル庁を新設する

など、行政手続きはどんどんデジタル化されていく傾向にあり、生活面でもメール、SNS、インターネット通販、キャッシュレス決済、テレワークなどデジタル化が進んでいます。

私がボランティアを始めた2000年代はじめ頃は相談者に「パソコンをやらなくても生活できますが、やれば効率よく、快適な生活ができますよ」と言ってパソコンを勧めましたが、今やパソコン・スマホができないと暮らしていけない世の中になつてきています。

現在は、学校でも小学生に一人1台パソコンあるいはタブレットが与えられる時代になりました。このような教育を受けていない60代以上の高齢者は、デジタル・ディバイドからITの恩恵を受けられなくなってしまうと思います。私たちのボランティア活動が、このような人々の救済に少しでも貢献できれば良いと思っています。

——**活動される中で、やりがいを感じられるのはどんな時ですか。**

「パソコン・スマホ相談会」が終わった後、相談者から「トラブルが解消したことでも、ややもやっていた気持ちがすっきりした」や「わからないことが解明して助かった」と感謝の言葉をいただいた時です。

——**逆に、大変なことはどんなことですか。**

「練馬177地域ITリーダーの会」で、指導するリーダーの数がだんだん減ってきて

ていることです。始めた当初のメンバーが高齢化するに伴い活動できなくなり、年々活動をやめる方が増えてきました。

少しずつメンバーの補充はしていますが、年々、メンバーの数が減ってきているのが実態です。活動が維持できるよう、ある程度のメンバーは確保する必要があると思っています。

——**野村さんは20年近く活動されていますが、長い期間、継続できている要因は、何だとお考えですか。**

幸いなことに体が丈夫で、ほとんど病気をしていないことが一番です。また、好奇心が人一倍旺盛なことや、滅私奉公精神が強いことが、長続きしている要因かなと思っています。

今後、耳が遠くなるとか、足腰が弱って自転車に乗れなくなるとか肉体上の不具合が生じない限り、続けていきたいと思っています。

——**最後に、30代〜50代の読者へ向けてメッセージをお願いします。**

定年退職後にボランティアをしたいと考えておられるならば、その活動に関する資格を取得しておかれると良いと思います。若いうちのほうが身体能力面で資格を取りやすいでしょうし、取っておけば後年、ボランティア活動を進めるにあたって何かと役に立つと思います。

——**お話をいただき、ありがとうございました。**